みいけ

発行所
三池炭鉱労働組合
大牟田市入船町1番地
電話(53)3033～4
編集兼発行人 杉本一男
半年間 1,200円 送料共
振替口座番号
労金大牟田
0968946－005

犠牲を強要するな——

会社、誠意見せず強行へ

通勤電車廃止、宮内社宅撤去で

利用者減を理由にした通勤電車の全面廃止と、硬捨て地確保のための宮内社宅の撤去問題について三池労組は、次つぎに提案される減量合理化は、福利・厚生の条件低下であるとして反対の態度を明らかにして、要求を出し交渉を続けてきましたが、代替えバスを運行する等若干の前進があったものの、具体的要求で回答を求めた第三回団体交渉（九月七日）でも基本的には譲らず、「もう一つの組合が了承した」として強行を表明しました。この会社の誠意のない態度に強く抗議します。

通勤電車廃止

組合の要求と会社回答（要約）

① 代替えバス二年間運行の期限をはずすこと。
回答 期限は提案通り昭和六十二年三月末日までとしたい。

② 原万田のバス停に屋根付きの待合所を作ること。
回答 現在認可申請中であり、認可後、前向きに検討したい。

③ 緊急時に備え、バスに無線装置をつけること。
回答 困難である。連絡は系統図を作り市内電話で対処したい。

④ 事故時の代替えバスを確保すること。
回答 予備車二台を確保する。

⑤ 非常時には路線外の運行を考慮すること。
回答 考えていない。

⑥ バス停、発着時間など利用者の意見を聞くこと。
回答 認可後、各鉱との調整がつけば希望に添いたい。

⑦ 回送バスにも乗車出来るようにすること。
回答 困難である。

⑧ 家族の乗車、さらに下請工も乗車させること。
回答 在籍者は身分証明書か入門証で乗車。家族には乗車証を発行。下請工の乗車は考えていない。

⑨ 転居条件を大幅に引き上げること。
回答 提案通りとしたい。期限はバス運行期限同様とする。

⑩ バス停、バス発着時間の変更については事前に協議すること。
回答 そのようにしたい。

会社側の回答を受けたあと各項目にわたってさらに追及しましたが、前進した回答はなく、福利・厚生条件の低下、とくに期限付き運行については反対という組合の態度を表明して打ち切りました。

宮内社宅撤去

組合の要求と会社回答（要約）

① 期限付き転居には反対である。
回答 提案通り九月末日としたい。ただし特別の事情があれば、一定期間の延期は考慮するが、工事は始めたい。

② 地域住民に迷惑のかからない硬捨て場を確保すること。
回答 海岸投棄しかないが、困難性もあり当面は宮内社宅跡地とし、その間に考えたい。

③ 運送、工事の安全確保し、隣接地域住民に説明すること。
回答 安全対策は十分である。主旨は総務部に伝えてある。

④ 転居の場合、居住者の意見を尊重し、諸条件を大幅に引き上げること。
回答 前回よりも引き上げた。これ以上は困難である。

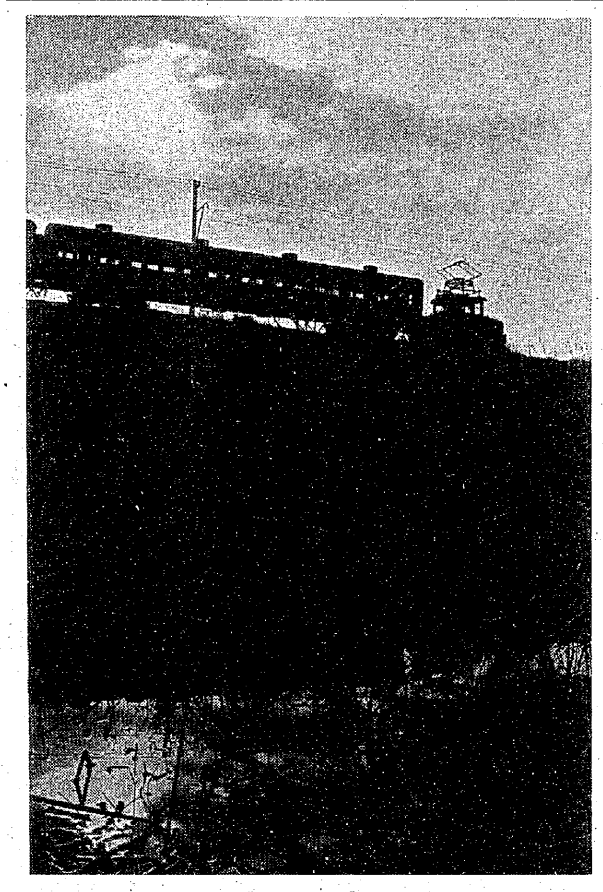
⑤ 共同浴場は全員の転居完了まで継続すること。
回答 提案通りとしたい。なお、三池商事も九月末日で閉鎖の意向であり、別途話し合いたい。

⑥ 硬捨ての最終計画案と進行状況を組合に説明すること。
回答 必要に応じて説明する。

このあと要求をいれるよう各項目について追及しましたが、平行線のまま推移し、交渉は打ち切られました。

次つぎに提案される減量合理化を許さず、がんばりましょう。

9・28 三川鉱 坑内火災 抗議集会
とき 九月二十八日(金) 午後五時
ところ 三川鉱正門前



夜明けの境崎付近を行く通勤電車

労働条件向上 本人の希望 あくまで実現

——坑外修理工場の合理化問題——

四山鉱と三川鉱の坑外修理工場を全面的に下請化するという会社提案（七月六日）を受けて、同二十四日要求書を提出、八月十四日に第三回の団体交渉を開きましたが、この中で修正提案を含む具体的な内容が示されました。

これを受けて、長年働いてきた職場を奪う配置転換、合理化反対のたたかいに取り組んできた経過を総括、今後の取り組みを含めて委員会に提案し、その後当該分会での討議と集約を合わせて具体的な内容で会社との交渉を続けてきました。

配転問題については、本人の希望を実現するという点でまだ問題が残されていますし、「現状通り」とする四山鉱の例もあり、さらに浴場、休憩所を含む職場環境の問題、チェックマンの労働条件など、今後の対応が求められていますが、会社は新労側が急いでいるとして先行する動きもあります。

特定休日 目一杯使 を使いきろう

特定休日は、労働時間短縮を目的として長い間かかってストライキまでうってかちとってきたもので、炭労との中央協定事項でもあります。

祝祭日にかわるものとして年間十二日と協定されたものの、出炭不振、赤字などの理由で各山に会社側の逆提案が出され、自由行使という型で出勤が強要されているのが実態です。

三池炭鉱でも、年間四日の自由行使を強行し、今年さらに年間二日を自由行使にしたいと提案してきました。

三池労組は、一方的な破棄は許さないとして反対しましたが、新労組が了承したことを盾にとって強行したいきさつがあります。

現在は十二日のうち、六日が特定休日、六日が自由行使ですが、調査によると毎期六十パーセント程度しか使っていません。まさに会社の思うツボという状況だといえます。

九月は期末です。上期の分三日は必ず使いきるようにしなければなりません。また十月から下期に入りますが、早いうちに使いきることが有利ですし、特休に比べ安いからと後まわしにしないことが重要です。

炭労保安調査団が入坑点検

坑内火災対策の強化を

会社に改善申し入れ

四山鉱では本層西六十添卸部内、三川鉱では第二上層西七十五卸部内を重点的に調査しました。

この入坑点検には三池労組の執行委員も同行、昇坑後各項目別に集約を行い、重点項目については直ちに会社側に改善を申し入れました。

① 坑内火災防止のための消火栓は約二百メートル毎に設置されているが、短縮すること。

② 消火栓とホースをセットで同一箇所に設置すること。

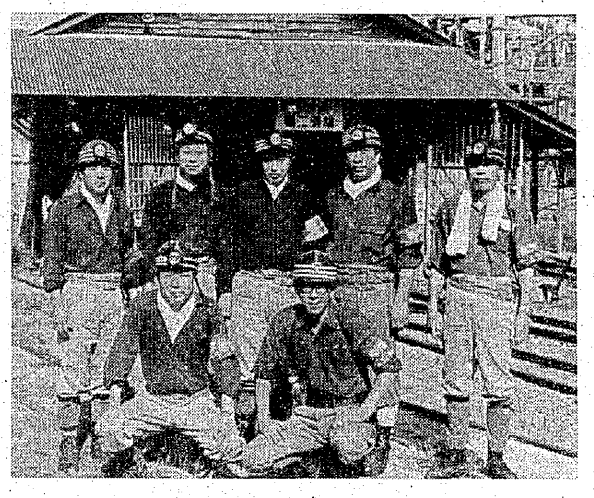
③ 各鉱に保安監督室長と同等の権限を持つ責任者を置くこと。

④ 高温問題を抜本的に見直すこと。

⑤ 三川鉱西七十五卸の含水帯、水付き対策を講じること。

なお、この申し入れに対する会社回答は、後日提出されることになっています。

九月六日炭労保安調査団（団長・藤原事務局次長）は二班に分かれ、



炭労保安調査団は、北海道と九州（高島・三池）に分かれ、三池には藤原次長、野崎高島保安部長、橋本書記らが入坑しました。

地底

▼…台風一過のあと、急にしのぎ易くなった。昨今は秋雨前線が停滞し、もう晩秋の気配。これも異状なようだ。中秋の名月も見えず〝にしばるさん〟〝こくんぞさん〟も終わる。心配なのは台風の脅威——。

▼…秋の脅威の一つに結婚式がある。招く側も招かれる側も大変なのだが、当人はもっと大変。ある調査によると、近ごろは結婚式も豪華指向でハネムーンも海外。住居や家具を含めるとなんと中堅サラリーマンクラスで七百万円もかかるとか。商戦に乗せられているが、問題はその半額が親頼みなこと。親はまさに〝憂秋〟だ。

▼…中高年男性の自殺者が激増している世相の中で、敬老の日、老人福祉週間を迎えた。日本人の平均寿命はこの三年間世界一を誇っており、百歳以上の長寿者も史上最多の千五百六十三人で記録更新中。しかし「寝たきり老人」の数も四十七万人以上。日本の生活環境は高齢者にとって果たして快適なのだろうか……。

▼…「自重自戒」もどこへやら派閥集会で角栄がオクターブを上げて威圧発言。もともと党外の元首相が〝中曽根再選〟をブテばこれが重大な影響を及ぼすのだから不思議。〝角影〟排除を声明した当の中曽根も頭を下げるぐらいだからまさにこの党は異常。「公明は自民と行動を共にする」との発言は、真実味を帯びていた。

▼…初めての体験者は「圧倒」されたと、その凄さに驚く。炭鉱の経験者も三池の坑内を見て「壮絶」で、さすがは「日本一」だと評す。〝暑さ〟〝水〟がとりわけ印象に強い様子。そして「なぜ事故や災害が続く」のかと首をかしげる。直接の原因はともかく、労働環境、保安の管理、体制に原因があることは論をまたない。